

ベニマシコ（アトリ科） 全長15センチ

今冬は積雪も少なく比較的凌ぎやすい気候となり、例年は通れない農道にも車を乗り入れることが出来た。

1月12日、この日は曇り空であったが風もなく穏やかな一日です。ニセアカシアの林にシジュウカラとエナガの混群がやって来た。じっくりと観察していると、赤い小鳥のベニマシコが現れた。白黒の殺風景な世界に、突如として現れた鮮やかなベニマシコのオス。冷え込んだ体をホットさせるような温かさを運んでくれました。



真冬の赤い鳥はよく目立ちます。

木の根元近くの枝に止まると、地面に降りたり戻ったりを繰り返している。他に移動せず、じっくりと枝に絡みついた草の実を啄ばんだ。



猿のような赤い顔から、紅猿子（ベニマシコ）の名がついたと言われます。



枝が被さりよく見えないが、足元の草の実を食べているようだ。

冬期間はイネ科やタデ科の草の実を食べると言われるが、何の種類かは分かりません。食べ物の少ない真冬の季節、小鳥たちの貴重な食糧となっているようです。



後姿も赤かった。



丸々と太って見える。